

JSだより

セミナーJS最前線シリーズ②

連載 ②10

「下水道展'23札幌」を終えて
～北海道総合事務所の最近のトピックス～北海道総合事務所長
菊池 俊貴

1 はじめに

8月1日から札幌市豊平区の札幌ドームを会場に、東京以北で初めての開催となる「下水道展'23札幌」が開催されました。日本下水道事業団（以下、「JS」という）も展示ブースを設置し、JSの役割やDX技術の取組についてご紹介しました。展示ブースには多くの自治体や企業の方々にお寄りいただき、本当にありがとうございました。引き続き、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。下水道展の開催に合わせて、8月3日に公開セミナー「JS最前線」を札幌ドーム内で開催しました。その中で、北海道総合事務所の活動状況や事業概要についてお話しした内容を紹介させていただきます。

2 北海道総合事務所の状況

北海道総合事務所の前身は、昭和49年6月に室蘭工事事務所として開設され、昭和54年に北海道工事事務所、昭和58年10月に北海道地方を所管する事務所として、北海道総合事務所となり今年で40周年を迎えます。

北海道の令和3年度末下水道普及率は91.8%となっており、全国平均の80.6%より高く、全国7位の数値となっています。

JSが北海道内でこれまでに受託してきた下水処理場の建設箇所数は、令和4年度末時点で、処理場118箇所と北海道内の処理場193箇所の約6割の計画・建設事業に携わってきました。離島はもちろん、下水道の技術者が不在であった地域におい

ても、処理場建設に携わってきています。

このように、JSが各地域の処理場建設に携わることで、早期に高普及率を達成できたと考えています。現在も札幌市にある事務所を起点に、東日本設計センターと連携を図りながら、北海道総合事務所22名の職員が北海道内の下水道施設の計画、実施設計、建設工事のサポートを実施しています。

近年は下水道施設の老朽化による改築事業に加え、施設の耐震化に関する工事も増えており、令和5年度は、29市町村、北海道庁の2流域下水道、1特定公共下水道の受託を予定しています。主な受託事業を紹介します。

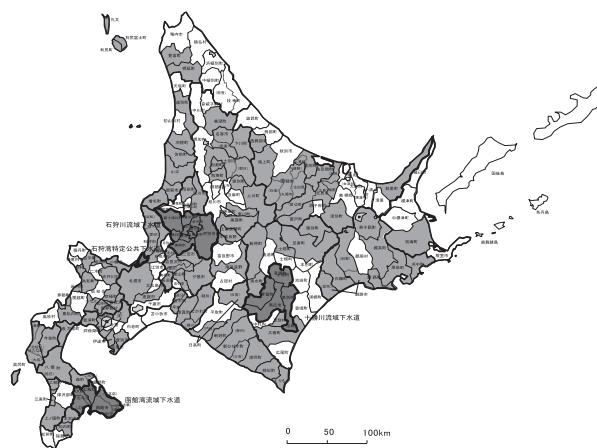


図1 令和4年度までの受託市町村位置図

■札幌市西部スラッジセンター（工事中）

老朽化した階段式ストーカ炉（100t/日）をはじめとした各種機器の更新など、JSによる16工事を同時に進行しているため、既存施設を稼働しながらの各種調整が難しい現場となっています。



写真1 階段式ストーカ炉

■室蘭市中島下水ポンプ場（工事中）

老朽化した機器更新と併せて、耐震化を実施しています。雨水ポンプ場も併設しており、施工に際し降雨時期を外すなど施設の運用に支障が生じないように調整しながら施工しています。



写真2 スクリーン設置工事状況

3 広域化・共同化への取組

北海道総合事務所では、し尿処理施設の老朽化に伴う、し尿・浄化槽汚泥の受入施設建設をこれまでに道内14市町村で受託してきました。

最近では、複数市町村による共同化の受入施設の建設が増えており、現在、余市町下水処理場で5町村の受入施設を建設中です。令和5年3月には北海道より「汚水処理施設広域化・共同化計画」が公表されたことから、これまでの実績による経験、知見等を活用し、計画地域の皆様のお力になれたらと考えています。

■浦河町し尿受入施設

令和4年3月に浦河町に完成した、浦河町、様似町、えりも町のし尿・浄化槽汚泥受入施設です。（受入施設約34m³/日）



写真3 浦河町し尿受入施設

4 DX技術への取組

北海道内の現場は札幌から遠距離である他、冬期間の雪による公共交通機関への影響もあることから、DX技術を活用した会議の開催や施工管理の効率化に取り組んでいます。Webカメラによる遠隔臨場もその一つで、現場で検査状況をWebカメラで撮影することで、JS職員が事務所内のパソコンで数値画像等を確認し、音声により現地へ指示することも可能です。更に、遠隔臨場時のパソコン画面を保存し竣工図書にも活用しています。

今後もDX技術の活用に取り組むとともに、北海道ならではの、積雪寒冷地における課題の把握、改善手法の検討を進めていきます。

5 おわりに

下水道事業を取り巻く環境が大きく変化していく中、その変化にしっかりと対応し、地方公共団体の下水道ソリューションパートナーとしての期待と信頼に応えられるよう、事務所も進化を続けながら業務に取り組んで参りたいと考えています。

きくち・としたか 昭和39年生まれ。平成2年4月札幌市採用。同市下水道河川局管路工事担当課長、管路保全課長を経て、令和4年4月より現職。